



背景

平成16年（2004）10月の台風23号は香川県内に大きな被害をもたらしました。県全域で死者11名、負傷者28名、家屋の全壊48戸、半壊357戸、床上浸水4,431戸、床下浸水13,336戸に及びました。この話は、さぬき市大川町で米を棚上げするために倉庫に向かおうとした人が、突然襲ってきた大水に足元をとられた時の体験談です。必死で電柱にしがみつき、人の手助けを受けて、危うく難を逃れることができました。

アクセス

災害現場付近（砂防堰堤(森行地区)）

- 大川ダムより東へ直線距離約2km
- さぬき市大川町森行地区
- 緯度経度 北緯34度13分45秒，東経134度15分51秒



平成一六年（二〇〇四）の大型の台風二三号は今までに経験したことがないような雨量をもたらしました。家の外を見れば前の畑からどんどん水が家の庭に流れ落ちてきています。「これは大変だ。倉庫に入れてある米俵が水に浸かる」という思いがとつさに脳裏を横切りました。この秋、収穫したばかりの米をまだ倉庫に貯蔵していました。まさか倉庫を水浸しにするほどの大雨があるとは思いませんでしたので棚の上にはあげていません。

家前の泥水の水位は膝の下あたりでしたので、まだ倉庫に行けると判断して、土砂降りの中を外に出ました。その時、小石をふくんだ大水が一気に流れてきて、足を取られて流されました。目の前に見えた電信柱に無我夢中でしたがみつきました。

その時、「おーい、この棒をつかめ」と知人の声。差し出された棒につかまってやっとの思いで家に戻りました。「ありがとう。危なかったよ。それにしても洪水は怖い」と心から感謝しました。その後、何とか倉庫にたどり着き、米俵を階段や棚などの上に載せたときには本当にホッとしました。水に浸かったら一年間の汗の結晶が水泡に帰してしまうのです。

一晩中、雨は降り続き、家の外ではゴウゴウと音を立てて流れていて、怖くて眠れませんでした。明るくなってから、あたりを見渡して驚きました。家の裏を走っている道路は川のようになっていて、何トンもありそうな大きな岩がごろごろと転がっています。私を救ってくれた電信柱は流されて跡形もありません。電柱がなかったら今頃、洪水に流されていたであろうと思うと今更ながらゾツとしたことは言うまでもありません。